



ラオス看護師国家試験を作る仕事

国立国際医療研究センター国際医療協力局

宮崎 一起

私たち日本人にとって、医療従事者として働くには国家試験等に合格し、免許を取得することが当たり前ではないでしょうか。しかし、それらの制度が確立していない国は存在し、ラオスもその一つです。ラオスではこれまで、医師・歯科医師、看護師・助産師などの医療従事者は、養成学校を卒業すれば専門職として働くことができていました。世界の潮流として医療従事者の質担保の必要性が認識される中、ラオスでも2000年代から国家試験制度を創設すべく、法令改定等が行われてきました。

私は2020年1月から2年間、国際協力機構（JICA）の技術協力プロジェクトで看護行政専門家としてラオスに赴任し、ラオスで初めての看護師国家試験の創設とその実施に関わりました。

グローバルヘルスの中の「保健人材開発」の潮流

グローバルヘルス（国際保健）のコンテキストの中で、国家試験制度の創設や実施については「保健人材開発」、すなわち保健医療に関わる人々の育成や質の担保などの文脈で議論されることが多いです。WHO（世界保健機関）では保健人材への投資は社会経済価値があると示しており¹⁾、世界の保健人材の59%を占める看護職は、2030年のSDGs（持続可能な開発目標）達成に貢献するとして様々なエビデンスを示し、看護教育への投資拡大、雇用創出、リーダーシップの強化などを各国政府に要請しています²⁾。このような潮流の中、日本のODA（政府開発援助）事業がラオスの国家試験創設を支え、私自身が一専門家として関わったことをとても意義深く感じています。

看護師国家試験を創設・実施するための「鳥の目」「虫の目」「魚の目」

2年間の看護師国家試験制度を作り上げていく過程では、制度全体を俯瞰する「鳥の目」、国家試験の具体的な中身や現場の課題等を解決する「虫の目」、そして様々な関係者との情報交換や調整を行う「魚の目」を持つ重要性を強く実感しました。

「鳥の目」では「保健人材の質担保のための法的枠組み³⁾（図1）」を用いて自分自身の頭の中を整理し、根拠となる法令はどの程度整備されているのか、ラオス看護師の求められるコンピテンシーや学校教育内容と国家試験の整合性は担保されているのか、免許発行・看護師籍登録、継続教育を見据えた制度となっているか等、ラオス保健省の方々と共通認識を図りつつ議論を重ねました。「虫の目」では、受験資格、試験形式、科目と問題数、合格基準など

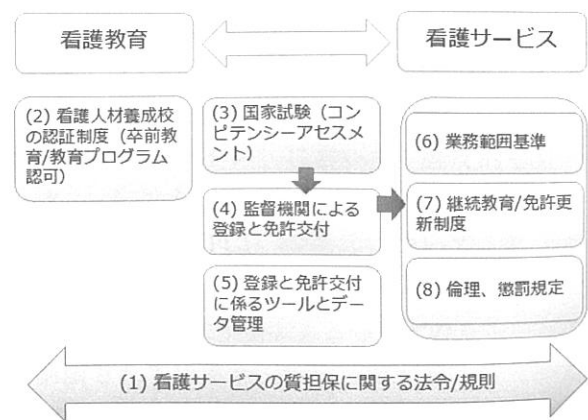


図1 保健人材の質担保のための法的枠組み

必要な構成要素にはじまり、受験手続き等についても担当者と密に連携して準備を行いました。「魚の目」では、保健省内の教育、人材育成、予算、広報等に関する部署の他、ラオス国内で「保健人材開発」を支援する国連機関等とも積極的なコミュニケーションと連携を図りました。

この様に、「ラオスで看護師国家試験を作る仕事」と一言で表すとシンプルではあるものの、決して「虫の目」でその中身を作ることにのみフォーカスするのではなく、特に「鳥の目」や「魚の目」を持って、向かうべき方向性や関係者との認識にズレが生じない様調整することについて、私自身多くの学びを得ました。

看護師国家試験実施までの道のり

2021年1月にラオスで初めての看護師国家試験を開催し、多くの議論を重ね共に汗を流してきたラオス保健省の方々と喜びを分かち合うことができましたが、決して平坦な道のりではありませんでした。

全国での国家試験に関する説明会では、国家試験と卒業試験の違いは何か、試験に不合格でも働けるのか、合格すれば優先的に公務員になれるのか、といった質問が学生や教員からも聞かれ、制度を周知することの難しさを感じました。これらの背景として、ラオスでは公的病院で正職員看護師として働くには公務員採用される必要があるものの、実際の採用枠は非常に限られており、教育機関卒業後はボランティアや契約スタッフとして働き、経験を積むことが一般的という現状があり、課題にもなっています。



写真1 試験問題作成委員対象のワークショップの様子

国家試験問題の質の担保については、最も力を注いだ部分です。2019年に実施された小規模トライアル国家試験では、想定していた合格者数を大きく下回る結果でした。そこで、正答率や問題の質指標等のデータを基に要精査問題を抽出し、それらを修正すると共に質の良い新規問題を作成するためのワークショップを開催しました（写真1）。2020年は全国の看護教育機関の教員等で構成される50名程度の試験問題作成委員の方々が集い、一週間程度の集中的な合宿形式を2回開催し、活発な議論と作業が行われました。その後も国家試験問題出題基準の改訂、問題作成マニュアルの作成等を行いました。

様々な過程を経て迎えた試験当日の朝、厳重に管理されたスーツケースから取り出された試験問題用紙が入った封筒は試験会場に運ばれ、受験生の前で行われた問題開封セレモニーが印象的でした（写真2）。試験委員長から記念すべき第一回国家試験への熱い想いと受験生への激励が述べられ、日本人の



写真2 試験問題開封セレモニー（筆者左3人目）



写真3 受験票を手に入室待ちする受験生



写真4 看護師国家試験の様子

感覚にはないユニークな経験でした。試験運営管理については、周到な準備の甲斐もあり大きな問題なく実施することができました（写真3, 4）。

試験結果の採点方法や合格基準の設定については、特に合理性、妥当性、透明性に注意を払い多くの議論を行いました。全体の採点后、想定していた合格率となることが判明した瞬間は、保健省の方々とこれまでの取り組みが報われた安堵感と喜びを分かち合いました。ラオス看護委員会会長の「ラオス看護師の質を担保するための大きな一歩を踏み出した」という言葉が印象的でした。2000年代から構想してきた看護師国家試験を成功裡に開催することができ、大変感慨深かったのではないかと思います。

現在、更なる問題の質改善や効果的な運営管理等にはじめ、国の政策としての看護師の採用等について課題は残るものの、2022年2月には第二回看護師国家試験も開催され、保健省の方々のオーナーシップの下に持続可能な制度として確立しつつあります。

ラオスに赴任した2年間、COVID-19によるロッ

クダウンなど辛い時期もありましたが、親切で穏やかな気質のラオスの人々、美しい自然と豊富なフルーツ、日本人の口に合う美味しい食事には癒されていました。そして、様々な困難な状況でも「ボーペンニャン（大丈夫、問題ないよという意味）」というモットー？の下に仕事をされるラオスの方々には、多くを学ばせて頂きました。保健人材開発という制度や人作りにおいて、私にとって故郷の一つとなったラオスでは勿論のこと、この経験を広く国内外で活かしていきたいと思えます。

- 1) World Health Organization. (2016). Global strategy on human resources for health: workforce 2030. World Health Organization. <https://apps.who.int/iris/handle/10665/250368>
- 2) World Health Organization. (2020). State of the world's nursing 2020: investing in education, jobs and leadership. World Health Organization. <https://apps.who.int/iris/handle/10665/331677>.
- 3) Fujita N, Matsuoka S, et al. Regulation of nursing professionals in Cambodia and Vietnam: a review of the evolution and key influences, Human Resource for Health. 2019 Jul 3;17 (1) :48. doi: 10.1186/s12960-019-0388-y.